



# 時短営業協力金は 年を越えられる補償額に

## 国の交付金額4万円を 全て活用すべきと質す

●12月15日、党代表質問に吉良が立ちました。前日14日に急遽出された県と国の時短営業要請に応じた飲食店などへの協力金の増額を知事に迫りました。

直近一週間の感染率は愛知県に次ぐ第6位と極めて高く医療崩壊が懸念されます。

県は12月16～30日まで、飲食店やスナック、喫茶店などに時短営業を要請し協力金2万円出すとした。当日すぐ高知市も1万円を上乗せする事を決め、計3万円となりました。しかし、県の発表のあと、国はGoTo事業停止を決め、12月28日～1月11日の期間の時短営業のため県に4万円の協力金を交付するとした。

●質問に立った私は、それなら4万円を県の協

力金にすべきと知事に迫り「活用出来るものは活用したい」との知事答弁を引き出しました。議会での答弁は重く、4万円となる可能性は大です。もしそうなら、県の4万と市の1万円の計5万円が15日間で、総額75万円の時短営業協力金となります。また、期間も、県は12月30日迄としていますが、国の期末1月11日まで延ばす事を県が決めたなら、さらに最低でも24万円がプラスされる事になります。この一両日中の県発表を注目しています。



## 医療崩壊を防ぐ 先手の検査実施を

●次に、感染急拡大による医療崩壊を避けるため、医療機関や介護施設での「社会的検査」と、クラスター発生した繁華街などでの地域的・面的な検査を強く求めました。質問当日、細木病院でクラスターが発生し、その他、県内の医療、介護施設でも極めて深刻な兆候が出ており、他県でも既に実施している事を紹介。

知事は、検査による擬陽性の弊害に触れながらも「特定の地域の面的検査は考え得ること」と、一歩前進の答弁をしました。

知事は、検査による擬陽性の弊害に触れながらも「特定の地域の面的検査は考え得ること」と、一歩前進の答弁をしました。

いよいよ無症状の感染者を早期発見する「検査、保護、追跡」の徹底した実行はもう待ったなしです。

知事は、躊躇などする事無く、すぐさま社会的検査、面的検査を「断行」すべき時です。

### コロナ禍に新しい命

★予想もしないウイルスとの戦いに明け暮れた一年が終わろうとしています。コロナがまだ認識されていない春先に、参議院議員で娘のよし子に新しい命が宿っている事を告げられ、第3波の真ただた中で初々しい生命を授かることができました。『感謝』の言葉以外、ありません。きっと強い子に育つでしょう。



### カラリン にやんでも通信

★今年はこれで皆様とお別れです。ご支援ありがとうございました。くる年が私たちにあって希望の年となりますように。皆様どうぞ、よいお正月をお迎え下さい。吉良富彦